

写真で眺める
東北地方



↑ 1 青森ねぶた祭 (青森県青森市、2019年8月) → p.255

東北地方には、地域によっていろいろな祭りがあるんだね。それぞれの祭りには、どんな由来があるんだろう？



↑ 2 仙台七夕まつり (宮城県仙台市、2018年8月) → p.254 ~ 255

↓ 3 相馬野馬追 (福島県南相馬市、2022年7月) → p.254





左を向いて腰をかがめた「種まきじいさん」

↑4 鳥海山と庄内平野(山形県酒田市、2017年5月) 5月になると、鳥海山の残雪が腰をかがめたおじいさんに見える、「種まきじいさん」が現れます。➡ p.252、256



※数字は写真番号を示す。



この地域の農家の人は、「種まきじいさん」が見えると田植えの時期が来たと感じるんだって。



↑5 横手のかまくら(秋田県横手市、2019年2月) この地域で約450年前から続く伝統行事で、子どもの無事な成長などを祈って行われます。

➡ p.254

➡6 わかめの収穫(岩手県、宮古市沖、2016年)

➡ p.258



↑7 りんごの出荷(青森県弘前市、2019年11月) 収穫の最盛期には1日あたりの取扱量が10万箱を超えることもあります。➡ p.259

東北地方の学習を見通そう

➡ p.263の振り返りでは、あなたの考える「写真で眺める東北地方」をつくらう

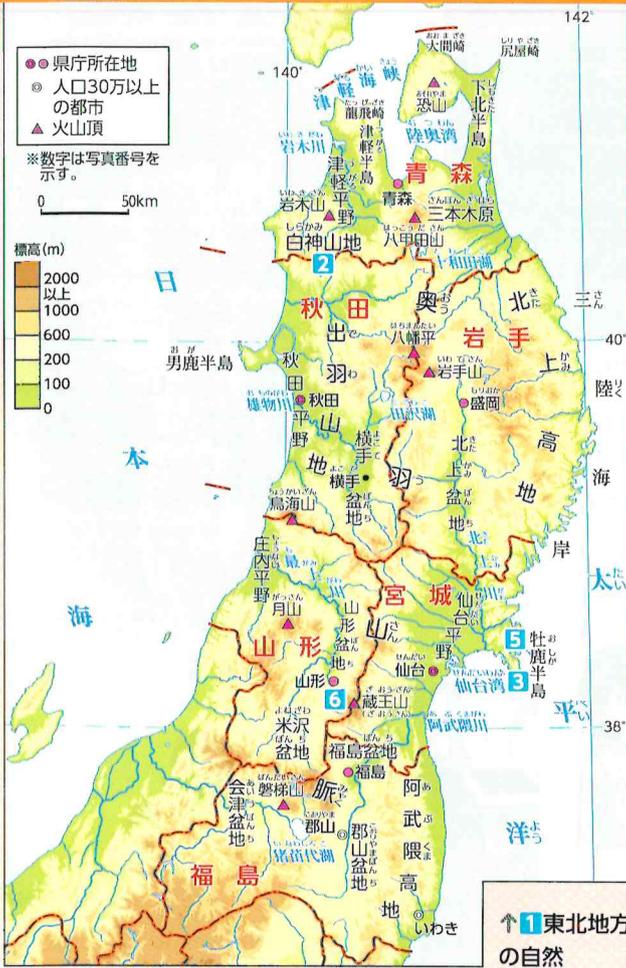
この節では、写真1~7のような東北地方の様子が、特に「生活・文化」の視点とどのように関係しているのかを中心に考えていこう。



見通しスライド



6節の問い 東北地方の人々の生活や文化は、自然環境や交通網の整備を背景に、どのように変化してきたのだろうか。



↑2 白神山地のぶな林(秋田県藤里町、2017年) 世界自然遺産に登録された白神山地には、貴重なぶなの原生林が広大に残されています。



↑3 リアス海岸が続く三陸海岸(宮城県石巻市、2020年)

1 東北地方の自然環境



東北地方は、地形や気候にどのような特徴がみられる地域なのだろうか。

面積 37.8万km ²	九州 11.8%	13.4	近畿 8.7	中部 17.7	関東 8.6	東北 17.7	北海道 22.1
人口 1億2541万人	11.3%	8.6	17.7	16.8	34.7	6.8	4.1

(2023年)【住民基本台帳 人口・世帯数表、ほか】

↑4 日本に占める東北地方の割合

地図帳活用

東北地方の降水量の多い地域が、夏と冬でどのように変化するのか、確認しよう。

南北にはしる山脈がつくる地形

東北地方は本州の北部に位置し、南北に長く広がっています。中央には奥羽山脈がはしり、太平洋側には北上高地や阿武隈高地が、日本海側には出羽山地や白神山地が広がります。八甲田山や鳥海山、磐梯山などの火山が多いのも特徴で、十和田湖のように火山の噴火でできた湖もみられます。火山の周辺には温泉が数多くあり、観光資源となっています。

南北に連なる山脈や山地の間には、日本海と太平洋に向かって流れる河川により、北上盆地や山形盆地、郡山盆地や会津盆地などの盆地が形成されました。北上川の下流部の仙台平野や、最上川の下流部の庄内平野などは、広大な稲作地域となっています。東北地

「女川いのちの石碑」は、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)によって起こった津波(→p.146)の被害を後世に伝え(→巻頭2)、未来の命を守るために設置されています。震災当時、小学6年生だった宮城県女川町の子どもたちが中心となり、津波が襲ってきた地点よりも高い場所に石碑を建て、避難の目印とすることで多くの命を守ろうとしています。町内にある21の浜に建立する費用の寄付金を集め、2021年に最後の石碑を建てることができました。建立した石碑をこれからの防災に役立たせていくことが期待されています。



↑5 女川町立女川中学校に建てられた21番目の石碑(宮城県女川町、2021年)



↑6 奥羽山脈にあるスキー場(山形県、蔵王山、2016年2月) 水分を多く含んだ冬の季節風が山の斜面に強く吹きつけるため、樹木の周りに氷や雪がついて固まった樹氷が見られます。

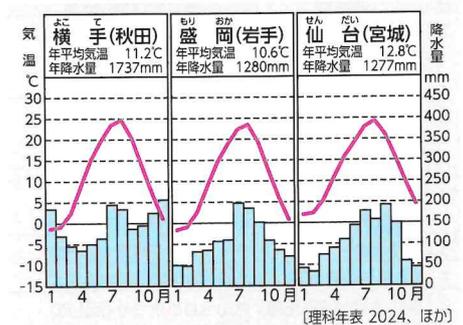
方では、これらの盆地や平野を中心に市街地が発展してきました。

また、日本海側には砂浜が続く海岸が多くみられるのに対して、太平洋側の三陸海岸には、入り組んだリアス海岸が続きます。波が穏やかな入り江では、養殖業をはじめとした漁業が盛んです。

5 **東西と南北で異なる気候** 東北地方は本州のほかの地域と比べて緯度が高く、北に行くほど冬の寒さが厳しくなります。また、南北の長さが約500kmもあるため、東北地方の北と南では年平均気温が2~3℃異なります。日本海側では、冬になると北西からの季節風によって冷たく湿った空気が流れ込むため、雪がたくさん降ります。これに対して太平洋側では、奥羽山脈を越えて乾いた風が吹き降ろすため、雪は少なくなります。

10 東北地方は、本州のほかの地域と比べて夏も涼しくなります。特に太平洋側では、やませとよばれる北東からの冷たい風が吹くと、曇りや霧の日が続き、日照時間が不足して気温が低くなります。

東北地方は、本州のほかの地域と比べて夏も涼しくなります。特に太平洋側では、やませとよばれる北東からの冷たい風が吹くと、曇りや霧の日が続き、日照時間が不足して気温が低くなります。



↑7 東北地方の主な都市の雨温図

確認しよう 図1で北上川と最上川の流れをたどり、流域に形成された盆地や平野の名称と位置を確認しよう。

説明しよう 東北地方の気候の特徴を、奥羽山脈の日本海側・太平洋側に分けて説明しよう。



たくさんの提灯は何をイメージしているのかな？

↑1 提灯が輝く「秋田竿燈まつり」(秋田県秋田市、2019年8月) 長い竹に数十個もの提灯をぶら下げて練り歩きます。(小歴公)

2 伝統行事と生活や文化の変化

6節の問い 東北地方の人々の生活や文化は、自然環境や交通網の整備を背景に、どのように変化してきたのだろうか。

✓ 東北地方の伝統的な祭りや行事は、人々の生活とどのように関わってきたのだろうか。

学習課題

(2024年7月1日現在) (大館市資料、ほか)

月	開催日	祭りや行事の名前
2	第2土曜・日曜 15～17日 17～20日	大館アメッコ市(大館市) 横手の雪まつり(横手市) 八戸えんぶり(八戸市)
4	12日～5月5日 15日～5月5日 29日～5月3日	弘前さくらまつり(弘前市) 角館の桜まつり(仙北市) 米沢上杉まつり(米沢市)
5	第3土曜・日曜 最終土曜・日曜・月曜	仙台・青葉まつり(仙台市) 相馬野馬追(南相馬市など)
6	第2土曜	チャグチャグ馬コ(滝沢市)
7	31日～8月4日	八戸三社大祭(八戸市)
8	第1木曜・金曜・土曜 第1金曜・土曜・日曜 第1金曜・土曜・日曜	郡山うねめまつり(郡山市) 北上・みちのく芸能まつり(北上市) 福島わらじまつり(福島市)
	1～4日 1～7日 2～7日	盛岡さんさ踊り(盛岡市) 弘前ねぶたまつり(弘前市) 青森ねぶた祭(青森市)
	3～6日 4～8日 5～7日	秋田竿燈まつり(秋田市) 五所川原立佞武多(五所川原市) 山形花笠まつり(山形市)
	6～8日 24～26日 最終土曜	仙台七夕まつり(仙台市) 新庄まつり(新庄市) 大曲の花火(大崎市)
9	第2土曜・日曜	全国こけし祭り(大館市)
12	上旬～下旬(予定)	SENDAI光のページェント(仙台市)

稲作との関わりが深い祭り

東北地方の各地には、地域で受け継がれているさまざまな祭りや行事があります。例えば、秋田県では、米俵に見立てた提灯を稲穂の形にかたどった竿燈を持って練り歩き、米の豊作を願う「秋田竿燈まつり」があります。厳しい自然環境のなかで米づくりを行ってきた東北地方において、人々が豊作を願う祭りは各地で見られます。観光イベントとして盛り上がっている仙台市の「仙台七夕まつり」も田の神に豊作を祈る行事から発展してきました。また、馬を色鮮やかな衣装で着飾らせて町を行進する、岩手県滝沢市の「チャグチャグ馬コ」は、かつて農作業に欠かせなかった馬の労をねぎらう祭りです。この祭りは、人と馬が密接に結びついた生活のなかから生まれました。こうした**伝統行事**は、東北地方の人々の生活や文化と深く結びつきながら、今日まで大切に受け継がれています。

観光資源としての伝統文化

東北地方では、1970年代から1980年代にかけて、高速道路や新幹線が整備されてきたことによって、各都市の行き来がしやすくなり、全国各地からも仕事や観光で多くの人々が訪れるようになりました。それに伴って、東

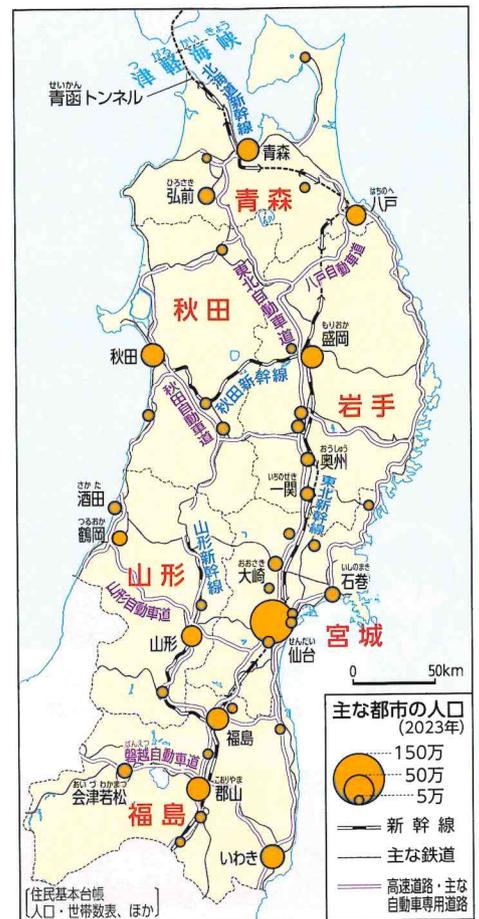
↑2 東北地方の主な祭りや行事 (小歴公)



↑3 仙台市と山形市を結ぶ高速バス(宮城県仙台市、2018年) 鉄道よりも運行本数が多い高速バスは、通勤・通学や買い物の際の交通手段として多くの人に利用されています。



←4 衣装で着飾った馬と行進する「チャグチャグ馬コ」(岩手県滝沢市、2016年6月)



↑5 東北地方の主な都市の人口と交通網

地図帳活用

仙台市中心部の様子を確認しよう。



↑6 プロ野球球団の仙台市の本拠地(ホーム)球場で行われたイベントの様子(宮城県、2021年) 試合やイベントの日は東北地方をはじめ、全国から人が集まります。

東北地方の伝統的な祭りや行事は、主にどのような目的で始められたのか、本文から書き出そう。

東北地方の伝統行事の変化が起こった背景を説明しよう。

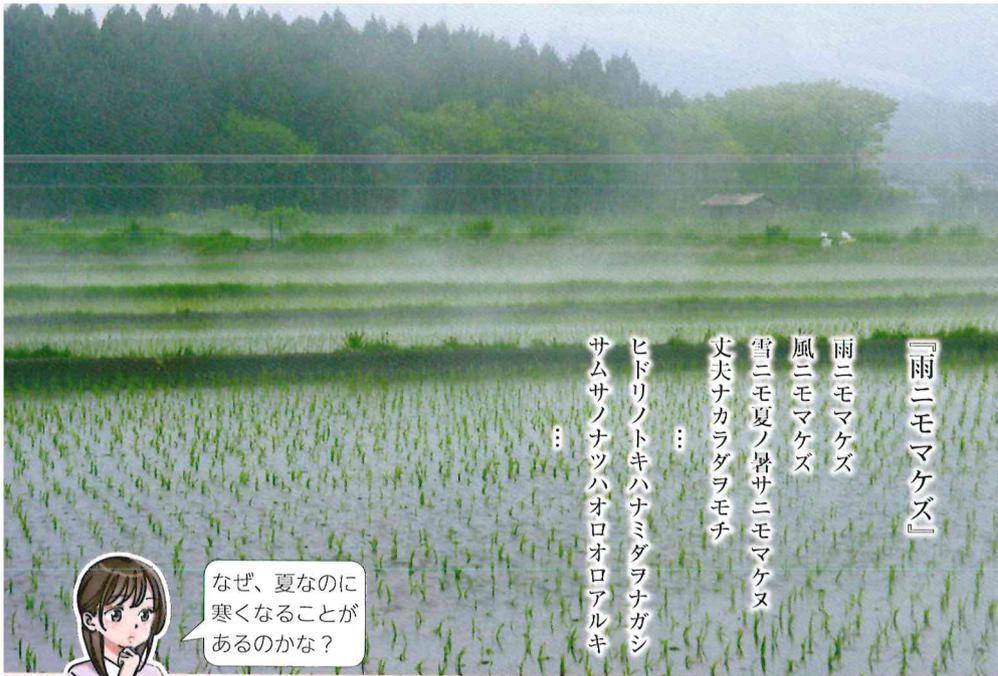
北地方で行われてきた多くの祭りが、新たな観光資源として注目されるようになりました。特に、東北三大祭りと呼ばれる「仙台七夕まつり」、「秋田竿燈まつり」、「青森ねぶた祭」を中心に、東北各地で開催される夏祭りをめぐるツアーは人気があり、国内外から多くの観光客が訪れます。

生活や文化の拠点、仙台市

仙台市は、江戸時代の城下町から発展した緑豊かな町で、人口が100万を超える東北地方で唯一の政令指定都市です。

東北地方の行政・経済などの中心的な役割を担い、政府の出先機関や企業の支店、大型の商業施設などが集まっています。仙台市と東北地方の各都市を結ぶ新幹線や高速バスを利用して、買い物や観光だけでなく、通勤や通学で多くの人々が仙台市を訪れるようになりました。また、仙台市を本拠地とするプロ野球球団やプロサッカーチーム、プロバスケットボールチームもあるため、これらの試合観戦や、スタジアムを活用したイベントのために訪れる人が増えています。

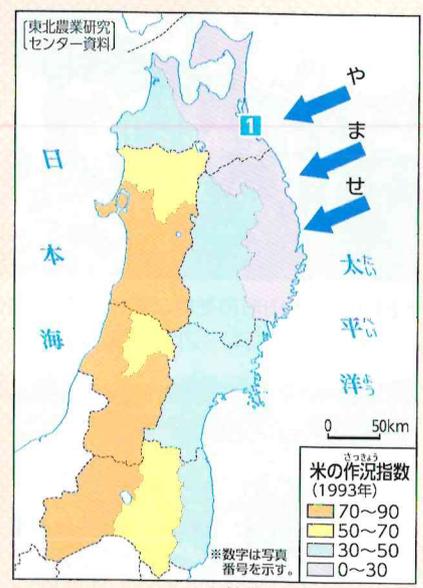
このほか、仙台市には「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」や「SENDAI 光のページェント」などの行事もあります。市民の力が結集する機会となっており、新しい文化が生み出されています。



なぜ、夏なのに寒くなることがあるのかな？

『雨ニモマケズ』
 雨ニモマケズ
 風ニモマケズ
 雪ニモ夏ノ暑サニモマケズ
 丈夫ナカラタラモチ
 ……
 ヒドリノトキハナミダヲナガシ
 サムサノナツハオロオロアルキ

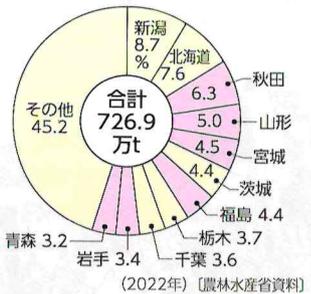
↑1 やませによる霧が立ちこめる水田(青森県三沢市、5月)と『雨ニモマケズ』の一節



↑2 1993年の米の収穫具合 平年の米の収穫量を100とした場合の、1993年の収量の比率を示しています。資料活用 やませの風の向きに注目しよう。

3 稲作と畑作に対する人々の工夫や努力

6節の問い 東北地方の人々の生活や文化は、自然環境や交通網の整備を背景に、どのように変化してきたのだろうか。



↑3 米の生産 資料活用 東北地方の県が占める割合に注目しよう。

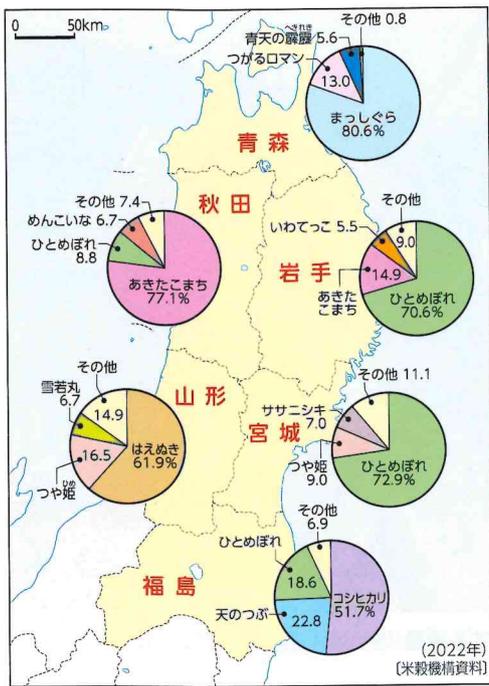
解説 やませ
 稲の成長期にあたる、主に6月から8月にかけて、東北地方を中心に吹く冷たく湿った北東の風のことです。やませが吹くと、東北地方の太平洋側では霧や雲が多く発生し、日照時間が減少するため、稲が十分に育たなくなり、収穫量が少なくなります。

学習課題 東北地方の人々は、農業を発展させたり生活を豊かにしたりするために、どのような工夫をしてきたのだろうか。

米づくりと寒い夏の克服
 仙台平野や庄内平野、秋田平野など、東北地方の平野や盆地では、古くから米の生産が盛んに行われてきました。稲作が人々の生活の基盤にあったことは、東北地方の祭りに、豊作への願いや収穫への感謝を表すものが多いことから分かります。しかし、岩手県花巻市出身の詩人である宮沢賢治が、『雨ニモマケズ』という詩のなかで「サムサノナツハオロオロアルキ」とうたったように、東北地方の農家は夏の低い気温に苦しめられ、自然の厳しさと闘ってきました。

東北地方の太平洋側では、やませの影響を強く受けると、稲が十分に育たず、収穫量が減る冷害が起こることがあります。1993年には全国的に冷害が起こり、東北地方は特に被害が大きかっただけでなく、日本中が米不足で混乱しました。この年をきっかけに、宮城県で開発されていた「ひとめぼれ」など、冷害に強く、よりおいしい品種の栽培が広がりました。現在は、秋田県の「あきたこまち」や山形県の「はえぬき」、「つや姫」など、それぞれの県を代表する銘柄米が全国で販売されています。

ほかにも冷害対策として、水田に水を深く張って根の保温効果を



↑4 東北地方の主な銘柄米の作付面積の割合

地理プラス+ 秋の風物詩、芋煮会

山形県や宮城県などでは、秋になると河原などの屋外に家族や友人が集まり、さといもが入った鍋を囲んで、みんなで食事を楽しまします。この風習は芋煮会とよばれ、冬の低温に弱いさといもを寒くなる前に消費しようとした生活の知恵から始まったともいわれています。山形県では芋煮会の季節になると、スーパーマーケットなどでも芋煮セットの販売や器具の貸し出しが行われるほどです。芋煮会は、地域の人々の生活に根づいた伝統行事となっており、学校行事として行っている所もあります。



↑5 河原で芋煮会をする子どもたち(山形県東根市、2016年9月)

高める昔からの方法に加え、気温と稲の生育状況を管理することで冷害の警戒を伝える情報システムを利用する農家もあります。

冷涼な気候を生かした農業と食文化

1970年代、日本人の食生活が変化したことで米の消費量が減り、米が余るようになったため、政府は米の生産量を減らす減反政策を始めました。

東北地方の米の産地では、水田だった農地で、大豆や飼料用のとうもろこしを栽培するなど、ほかの作物への転作が進みました。

一方で東北地方では、古くから寒さに強いそばや小麦の栽培も広く行われてきました。そのため、岩手県盛岡市のわんこそばや秋田県の稲庭うどんのように、そばや小麦を使った食文化が根づいており、観光地の飲食店などでも味わうことができます。また、米の不作に備えて、さといもも各地でつくられてきました。

やませが吹き込む太平洋側では、冷涼な気候を生かした畑作や酪農も盛んです。岩手県遠野市は、涼しい気候の下で育ち、ビールの原料となるホップの日本有数の産地です。青森県の三本木原は、夏の低温の影響を受けにくい根菜類である、にんにくやごぼう、ながいもなどの一大産地となっています。また、比較的なだらかな高原が広がる北上高地には、乳牛の牧場が多くあり、生乳の出荷だけでなく、バターやチーズなどの加工品の生産も盛んです。

- この政策の下では、各県の米の生産量を政府府が決定していました。しかし、輸入米に対する国産米の競争力を高める必要性が出てくるなどしたため、2018年度に減反政策は廃止されました。
- 同じ農地で、それまで生産してきた作物を、別の作物に替えて生産することをいいます。



↑6 にんにくの収穫(青森県東北町、7月)



確認しよう

東北地方における、やませと稲作の関係を、図2で確認しよう。



説明しよう

東北地方の稲作や畑作で行われている、気候に対応した工夫について、それぞれ説明しよう。



この踊りは、何に由来するものなんだろう？

↑1 運動会で「大漁唄い込み」を披露する児童(岩手県大船渡市、2022年)

4 水産業と果樹栽培に おける人々の工夫や努力

6節の問い 東北地方の人々の生活や文化は、自然環境や交通網の整備を背景に、どのように変化してきたのだろうか。

東北地方の人々の生活と結びついた水産業や果樹栽培では、どのような取り組みが行われているのだろうか。

生活に根ざした 水産業の営み

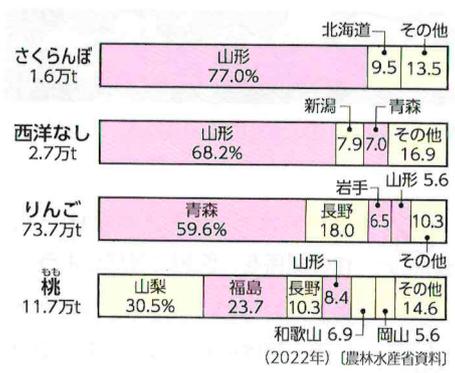
三陸海岸の漁港に近い地域では、学校の運動会などで、漁師の間で親しまれてきた民謡や踊りを披露したり、学校の校歌に漁業のことが歌われたりするほど、漁業は生活と密接に結びついています。

三陸海岸の沖合いには、寒流の親潮と暖流の黒潮がぶつかる潮目(潮境)があり、かつおやさんまなどたくさんの魚が集まる豊かな漁場となっています。そのため、八戸や気仙沼、石巻など、水揚げ量の多い漁港が点在しています。また、リアス海岸が続く三陸海岸の入り江や陸奥湾では、波が穏やかなため、かきやわかめ、ほたてなどの養殖業が盛んに行われてきました。漁港の近くにある水産加工場では、豊かな水産物が、缶詰めやパック詰めにされるほか、かまぼこなどの練り物、干物、塩漬けのわかめといった食品に加工されています。そして、多くのトラックが高速道路を走り、こうした水産物を東京などに出荷しています。

2011年の東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)によって、漁港や水産加工場は大きな被害を受けましたが、震災前の状況に戻りつつある所もあります。また、三陸海岸を南北に結ぶ高速道路が開通し、人やモノの往来がさらに活発になることが期待されています。



↑2 かつおの水揚げの様子(宮城県気仙沼市)



↑3 主な果物の生産量



↑4 さくらんぼの選別と箱詰め作業(山形県東根市、2017年6月)

声 さくらんぼ農家の話

さくらんぼの出荷作業は、1粒ずつ大きさを判別して、向きをそろえて箱詰めをしなければならないので、家族だけでなく近所の人たちにも手伝ってもらっています。地元の農協に出荷したり、直接注文の全国のお客さんに発送したりして出荷時期は大忙しです。



↑6 東北地方の土地利用と主な農水産物

	消毒・草刈り(月1回)			収穫			肥料散布					
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
さくらんぼ		枝切り・片づけ		ハウスのビニールかけ			ビニールはずし			(土壌改良剤)		
西洋なし	枝切り・片づけ・雪下ろし			摘果※1、枝切り		摘果、枝切り						
ぶどう	棚雪下ろし	種枝誘引※2		房の整形、袋かけ				枝切り・片づけ				
		ピニール張り		※1 実をまびく作業				※2 芽が出る枝に光をまんべんなくあてる作業		ピニールはずし		

←5 山形盆地にある観光農園の年間農作業 **小 鹿 公**

地形や交通を生かした果樹栽培

東北地方の盆地や平野のへりにある傾斜地、山あいから川が流れ出る所にある扇状地では、水はけや日あたりがよく、果樹栽培が盛んに行われています。

山形県は、山形盆地を中心に夏の昼夜の気温差を生かした果樹栽培を営む農家が多く、「果樹王国」とよばれています。なかでも、さくらんぼが有名で、高速道路や空港の整備が進んだことで、トラックや航空機で全国各地に出荷できるようになりました。さくらんぼ農家のなかでは、観光農園を開いて観光客をよび込む取り組みも広まっており、収穫や出荷の手間が省けるだけでなく、6次産業化による地域の活性化にもつながっています。また、1年を通して西洋なしやぶどうなど、収穫時期の異なる果物を並行して栽培し、安定した収入が得られる努力をしている農家もあります。

山形県よりも冷涼な青森県では、津軽平野を中心にりんごの栽培が盛んで、国内の生産量の半分以上を占め、近年は中国や台湾などへの輸出にも力を入れています。また、福島県では、福島盆地などの桃が日本有数の生産量を誇っています。東北地方でつくられるこれらの果物は、ジュースや菓子などの加工品にも利用され、観光客の土産などになっています。

地図帳活用
山形盆地の果樹栽培の様子を確認しよう。



↑7 桃の収穫(福島県福島市、2022年7月)
収穫から出荷まで手作業で大切に扱います。

確認しよう
東北地方のどのような場所で養殖業が盛んなのか、本文から書き出そう。

説明しよう
果樹栽培に携わる人々の工夫や努力について説明しよう。



↑→1南部鉄器の製造の様子(上)(2018年)とカラフルな南部鉄器(右)(岩手県盛岡市、2017年)



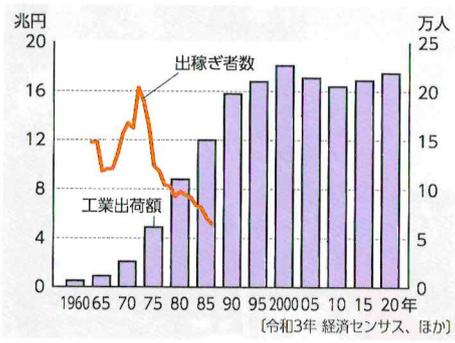
→2東北地方の伝統的工芸品



なぜ東北地方では伝統的工芸品づくりが盛んなのかな？

5 工業の発展と人々の生活の変化

6節の問い 東北地方の人々の生活や文化は、自然環境や交通網の整備を背景に、どのように変化してきたのだろうか。



↑3東北地方の工業出荷額と出稼ぎ者数の変化



↑4高速道路に隣接する自動車組み立て工場(宮城県大衡村、2015年)

学習課題 東北地方の工業や人々の生活は、どのようなことをきっかけに、変化してきたのだろうか。

伝統的工芸品の変化

東北地方には、漆器の会津塗や津軽塗、木工品の天童将棋駒をはじめとするさまざまな伝統的工芸品があります。これらには、地元でとれる材料が使われており、江戸時代以前から、職人が育成されたり、冬の間農家の副業などとして行われたりしながら発達してきました。例えば、岩手県の南部鉄器は、地元の砂鉄や漆、木材などを利用した伝統的工芸品です。安くて軽い調理器具が普及したことにより、生産量は一時減少しましたが、現代風にデザインなどを変えることで本来の価値が見直され、国内だけでなく海外でも人気を得るようになりました。

一方、こうした伝統的工芸品をつくる職人の高齢化が進んでおり、後継者が不足するという問題を抱えています。そのため、福島県の会津塗などのように、訓練校を開き、後継者の育成に取り組んでいる例もみられます。

工業の発達と生活の変化

高度経済成長期までの東北地方は、積雪によって農業ができない冬の間だけ出稼ぎに行く人が大勢いました。1970年代から1980年代にかけて、東北自動車道や東北新幹線など南北方向の交通網が整備されると、岩手県北上市や



地理プラス+ たんこう おんせん
炭鉱の町から温泉テーマパークの町へ

福島県いわき市とその周辺の地域には、常磐炭田とよばれる炭田が広がり、炭鉱で働く人々とその家族でにぎわっていました。しかし、1960年代から石炭の事業は衰退し、多くの人が失業したため、地域社会に大きな影響が出ました。そこで炭鉱を経営していた企業が、石炭を掘る際に湧き出していた温泉水を、テーマパークに利用する事業を始めました。そこでは元炭鉱労働者の雇用を守ったことで、地域が活気づきました。いわき市は、東北地方太平洋沖地震(東日本大震災) (→ p.146) による大きな被害を受けましたが、現在でもテーマパークは復興の象徴として、多くの人々を勇気づけています。

→6 テーマパークでフラ(フラダンス)のショーを楽しむ観光客(福島県いわき市、2020年) フラは、ハワイの先住民の文化です。このテーマパークは、1960年代に日本人の憧れの海外であったハワイをイメージしてつくられました。



←5 東北地方の主な工業と出荷額

福島県郡山市などの高速道路沿いの広い土地が確保できる場所に**工業団地**がつくられました。労働力を必要とする電気機械の工場が誘致されるなど、働く場所が増えたことで、出稼ぎはほぼなくなり、農業や漁業と兼業する人も増えました。

① 行き先は、建設業や製造業などの働き口の多かった関東地方が中心でした。

② 木くずや生ごみ、家畜の糞尿など、生物由来の資源の総称です。

5 1990年代になると、岩手県から宮城県にかけての高速道路沿いに大規模な自動車組み立て工場が進出し、それに関連する部品工場も増えていきました。現在では、小型のハイブリッドカーをはじめとする自動車生産の一大拠点となっています。

10 **新たな社会の構築を目指して** 2011年の東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)による福島県の原子力発電所の事故を

きっかけに、東北地方では原子力発電に代わる新しいエネルギー源として、風力や太陽光、地熱、バイオマスなど、**再生可能エネルギー**を導入しようとする動きが活発になっています。このほかにも、福島県浪江町では太陽光で発電した電力を用いて水素を生産して

15 います。この水素は、家の近くにスーパーマーケットなどの小売店がなく、買い物が困難な人のための移動販売車の燃料として利用されており、水素エネルギーを活用した社会の構築が目指されています。



↑7 再生可能エネルギーを利用した水素製造施設(福島県浪江町、2020年)

確認しよう 東北地方で工業が盛んな都市は、主にどのような所に分布しているのか、図5で確認しよう。

説明しよう 東北地方の人々の生活が変化した背景を、工業に注目して説明しよう。



6 節の問い 見方・考え方 地域の特徴 (→ 巻頭 8)

東北地方の人々の生活や文化は、自然環境や交通網の整備を背景に、どのように変化してきたのだろうか。

節の振り返り 1 学んだことを確かめ、節の学習内容を振り返ろう

知識 地図帳活用

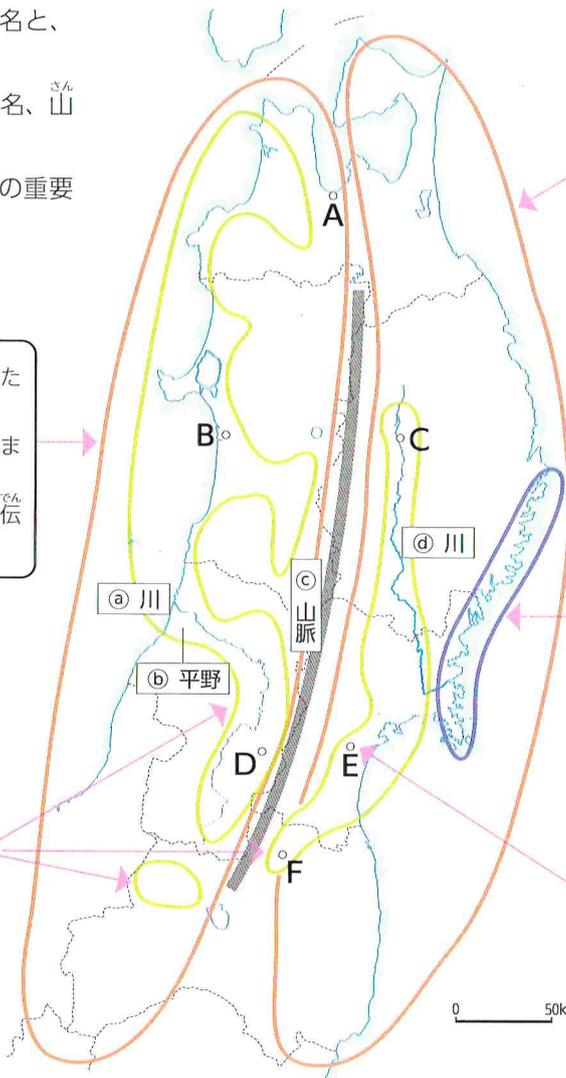
1. A ~ F にあてはまる県庁所在地名と、その県名を答えよう。
2. ㉑ ~ ㉒ にあてはまる河川名、平野名、山脈名を答えよう。
3. ① ~ ⑥ にあてはまる語句を、「節の重要語句」から選んで答えよう。

日本海側 (→ p.251、253 ~ 255)

- ・北西から吹く湿った冬の ① が雪をもたらす
- ・米の豊作への願いを込めた「秋田竿燈まつり」は、観光資源にもなっている
- ・かまくらは、雪の多い地域で育まれた伝統文化

平野や盆地 (→ p.256 ~ 257、259)

- ・古くから米の生産が盛ん
- ・1970年代になると、米の生産を減らす ② が始まる
- ・冷害に強だけでなく、よりおいしい銘柄米の開発も進む
- ・盆地や平野のへりにある傾斜地や、扇状地では ③ が盛ん



太平洋側

(→ p.253、256、260 ~ 261)

- ・夏に ④ とよばれる北東の冷たい風が吹き、冷害を引き起こすことがある
- ・南部鉄器は、⑤ の一つで、現代風のデザインも人気
- ・1990年代になると、高速道路沿いに大きな自動車組み立て工場が進出

三陸海岸 (→ p.253、258)

- ・沖合いには、潮目があり、豊かな漁場が広がる
- ・海岸線が入り組んだ ⑥ が続き、養殖業や水産加工業が盛ん

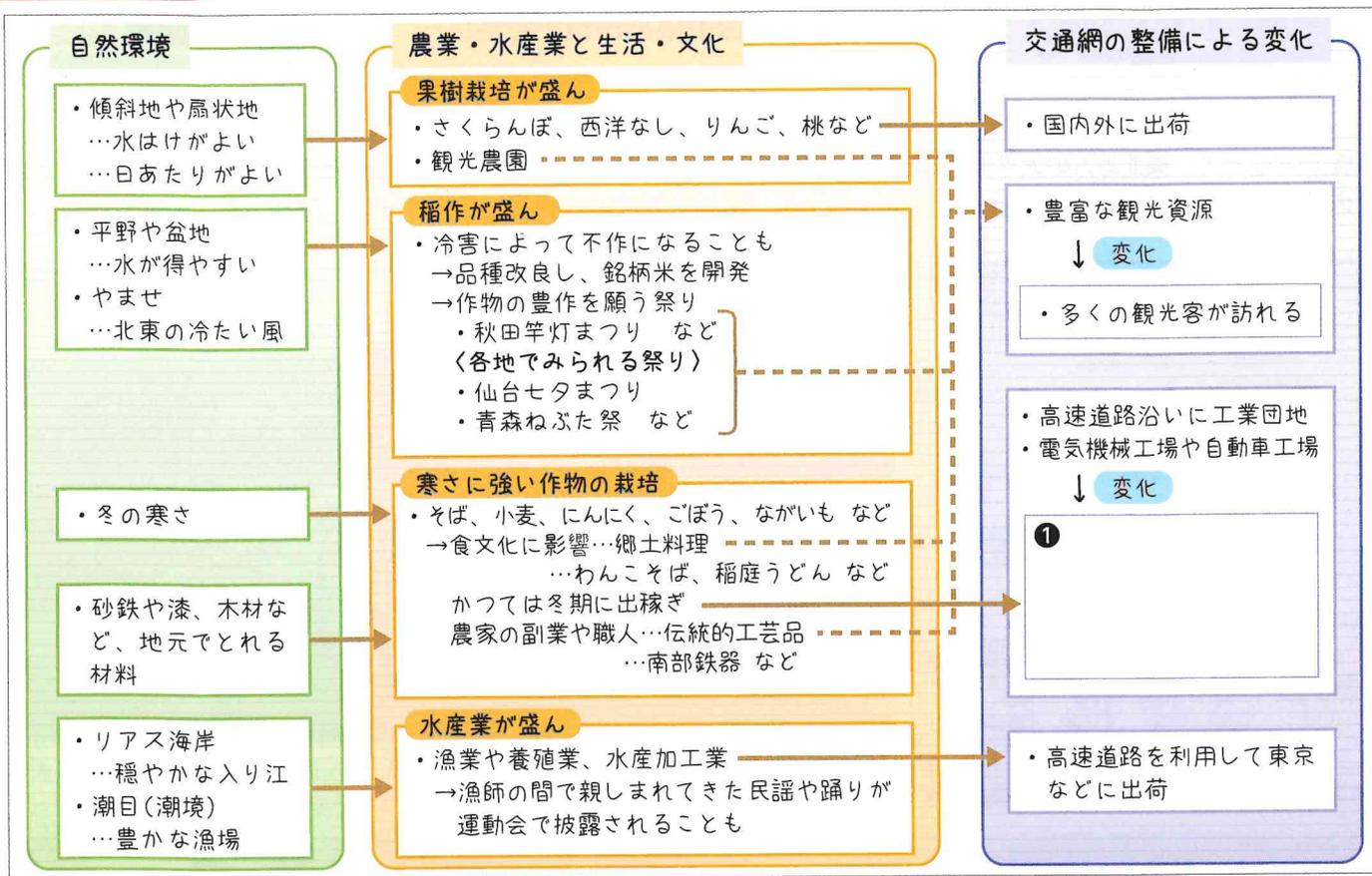
E (→ p.255)

- ・東北地方の行政・経済などの中心的な役割を担う、東北地方での唯一の政令指定都市
- ・季節の祭りやプロスポーツなどで、多くの人々が訪れる

↑ 1 白地図を使ったまとめ

節の重要語句 簡単な説明ができた語句にチェックを入れよう。

- | | | | | |
|--------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|---------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> リアス海岸 | <input type="checkbox"/> 伝統行事 | <input type="checkbox"/> 減反政策 | <input type="checkbox"/> 果樹栽培 | <input type="checkbox"/> 再生可能エネルギー |
| <input type="checkbox"/> 季節風 | <input type="checkbox"/> 冷害 | <input type="checkbox"/> 潮目 | <input type="checkbox"/> 伝統的工芸品 | |
| <input type="checkbox"/> やませ | <input type="checkbox"/> 銘柄米 | <input type="checkbox"/> 養殖業 | <input type="checkbox"/> 工業団地 | |



↑ 生活・文化の特徴に注目して東北地方をまとめた例

1 節の問いについて、図でまとめよう

◆この節の学習を振り返りながら、図2の①を埋めて、生活・文化の特徴に注目した東北地方のまとめを完成させよう。

2 節の問いについて、考えを深めよう

◆図2をもとに、東北地方の人々の生活や文化が自然環境や交通網の整備を背景に変化してきたことが分かる写真と、その写真を補足するための資料(写真やグラフ、地図)を一つずつ、教科書や地図帳、ウェブサイトなどから選ぼう。

◆グループになって、選んだ写真や資料とその理由を発表し合おう。そして、あなたたちだけの「写真で眺める東北地方(→p.250～251)」をつくり、地域の特色を示すタイトルをつけよう。

3 節の問いを踏まえて地域の特色をまとめよう

◆図2と2をもとに、東北地方の特色を文章で簡単にまとめよう。

6 節の問い

東北地方の人々の生活や文化は、自然環境や交通網の整備を背景に、どのように変化してきたのだろうか。

ヒント1 東北地方の人々の生活や文化の背景となる自然環境の特徴は？

ヒント2 交通網の整備による生活や文化の変化は？

振り返り **主体的な学び**

- 節の問いの解決に向けて主体的に取り組むことが
よくできた できた あまりできなかった
 →よくできた点や改善したい点などを書き出そう。
- 節の学習を終えて、新たな疑問や探究したいこと、深めたいことなどを書き出そう。



未来に向けて

さいがい 災害からの復興と生活の場の再生

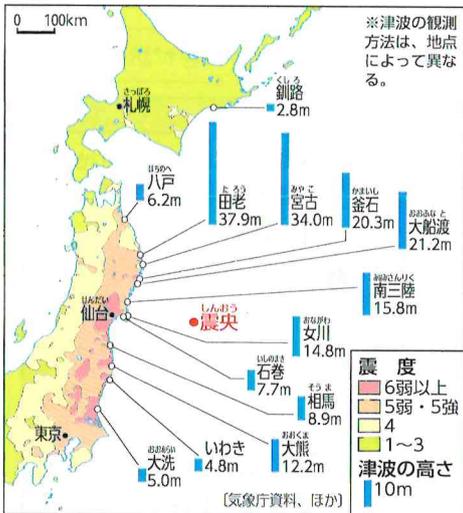
ふつこう 復興と生活の場の再生
さいせい さいせい
～高台に移転した岩手県宮古市田老地区～

防災



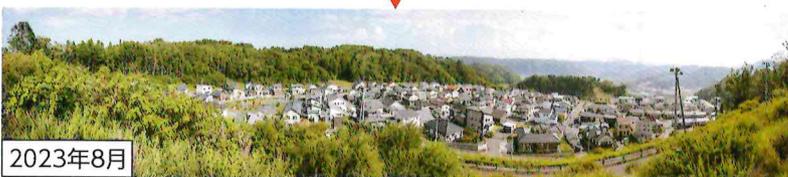
2011年3月11日、東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)によって、東北地方の太平洋側の沿岸を中心とする地域を、巨大な津波が襲いました。これにより、多くの

人命、建物、人々の暮らしの場が奪われました。被害が大きかった岩手県宮古市田老地区では、復興に向けてどのような取り組みが行われているのでしょうか。



↑1 東北地方太平洋沖地震の震度と津波の高さ

↑2 田老地区の様子(岩手県宮古市、2022年8月) 海に近い地域は、津波によって大きな被害を受けたため、住宅を建てることのできないエリアに指定されています。



↑3 高台に造成された新しい住宅地(三王団地)の移り変わり(岩手県宮古市)

↑4 集会所で行われた餅つき大会(田老地区、2023年)

岩手県宮古市田老地区では、長年、町を守ってきた防潮堤が2011年の大地震の津波によって破壊され、多くの人々が犠牲になりました。震災後、住み慣れた地域を離れ、高台の新しい住宅地(三王団地)か(写真2・3)、かさ上げした旧市街地に住むことになった人が多くいました。

三王団地への移転は、2016年ごろから始まり、今では、約250世帯、約600人が暮らしています(2022年)。しかし、震災前には別々の地域に住んでいた人が集まっているため、新しい生活や近所づきあいに不安を感じる人もいました。そこで、住民たちの呼びかけによって、2017年に自治会が結成され、自分たちの手で地域の問題を解決し

ていこうと、新たな取り組みが始められました。自治会では、地域の問題を定期的に話し合う場を設けたり、多くの人々が気軽に参加できるイベントを開催したりするようになりました(写真4)。また、家に閉じこもりがちな高齢者が集まる場も、積極的に設けられています。このような取り組みを通して、世代や職業を超えて、さまざまな交流が生まれ始めています。

現在、田老地区では、新しい防潮堤の建設が完了し、災害に強いまちづくりが進められています。また、防潮堤などの施設だけでなく、住民一体となって地区全体で防災意識を高めていくために、さまざまな取り組みが続けられています。